

「第 5 期草津市地域福祉計画策定に
かかるワークショップ」について
(報告)

1 目的

「第5期草津市地域福祉計画」を策定するにあたり、市民の方々から幅広い御意見や御提言をいただき、計画に反映することを目的に、市民ワークショップを開催しました。

2 実施場所

草津市役所2階特大会議室

3 実施手法

グループワーク形式での意見交換を行いました。

4 実施日程

令和7年8月4日（月）

第1部：14時～16時

第2部：18時～20時

5 実施テーマ

昨年度実施した「地域福祉に関するアンケート調査」の結果を題材として、次のテーマについて意見交換を行いました。

テーマ①：不安や悩み、相談先について

テーマ②：地域とのかかわりについて

テーマ③：福祉に関する施策について

6 参加者人数

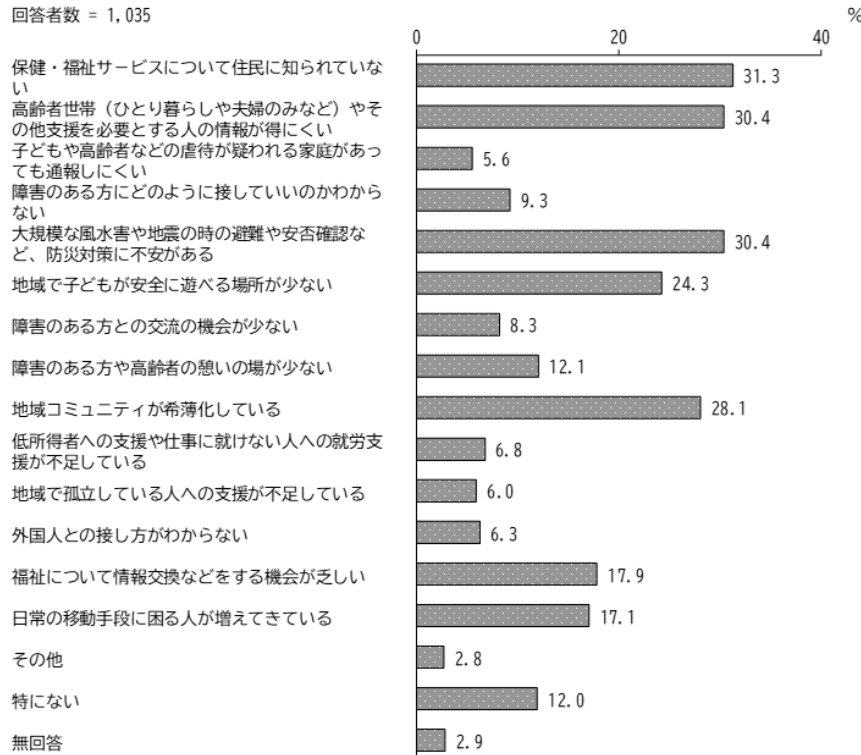
24名（4グループに分かれて実施）

7 意見の概要

テーマ①：不安や悩み、相談先について

設問：安心して生活していくうえで、どのような課題がありますか。

回答者数 = 1,035



ステップ①アンケート結果から見たこと

- ・ 情報発信は届かず、口コミにもつながらない
- ・ 顔見知りが安心感につながるが、外出が前提
- ・ 相談先が制度ごとに分かれていて分かりづらい
- ・ 地域とのつながりが希薄で孤立が見えにくい
- ・ 子どもが安全に遊べる場が地域に不足している

ステップ②地域でできること・始められそうなこと

- ・ 情報発信は繰り返し・わかりやすく・魅力的に
- ・ 閉じこもりがちな人への訪問など、つながりの一步を支援
- ・ 専門職と地域の連携強化
- ・ 「ちょっとそこまで」の移動手段が不足
- ・ 道路整備がすべての人に配慮されていない
- ・

ステップ③草津市の未来

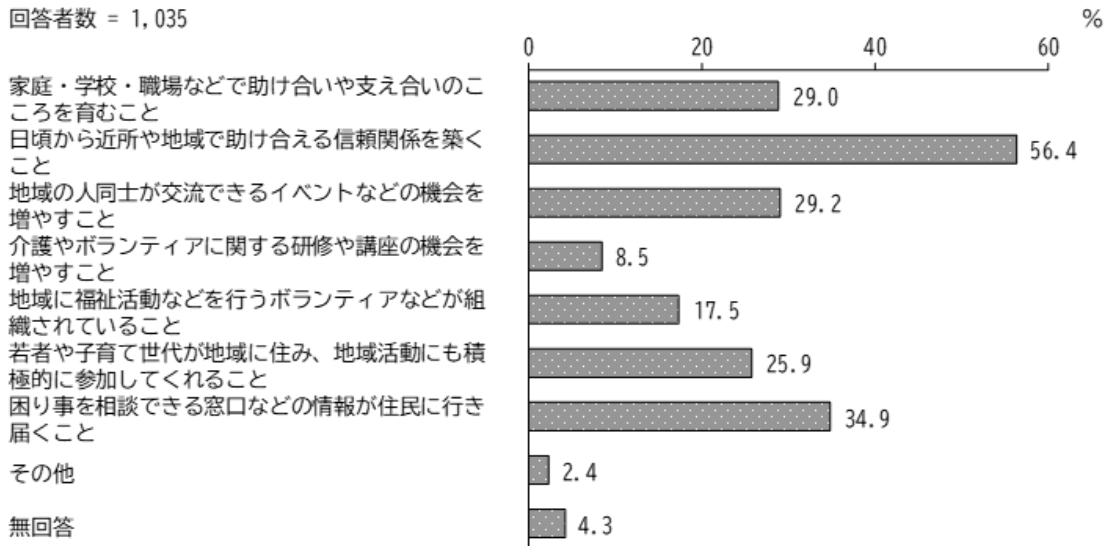
- ・ 高齢者・子ども・障害者も含めた「誰もが住み続けられるまち」
- ・ 地域住民が主役となり、遠慮なく話せる関係性
- ・ 専門職と地域が協働して支える仕組み
- ・ 安心・安全に暮らすために一人ひとりができることを考える
- ・ 多様な形の暮らし方を認め合う重層的なまちづくり



テーマ②：地域とのかかわりについて

設問：近所や地域での助け合い支え合い活動を活発にするためには

回答者数 = 1,035



ステップ①アンケート結果から見たこと

- ・ 地域イベントの温度差と交流機会の不足
- ・ 高齢者の移動手段が深刻（バス減便・免許返納後の困難）
- ・ 情報の届き方に課題（SNS・紙・口コミの使い分け）
- ・ 災害時の不安と地域との関係性の再確認
- ・ 若い世代の活躍と地域参加の促進が必要

ステップ②地域でできること・始められそうなこと

- ・ ご近所とのあいさつ・声かけを積極的に
- ・ マンション内交流や地域イベントで仲間づくり
- ・ 若者の意見を聞く場づくりと担い手育成
- ・ 災害時の助け合いを平時から準備
- ・ 気軽に立ち寄れる居場所（地域サロン・カフェ）の整備

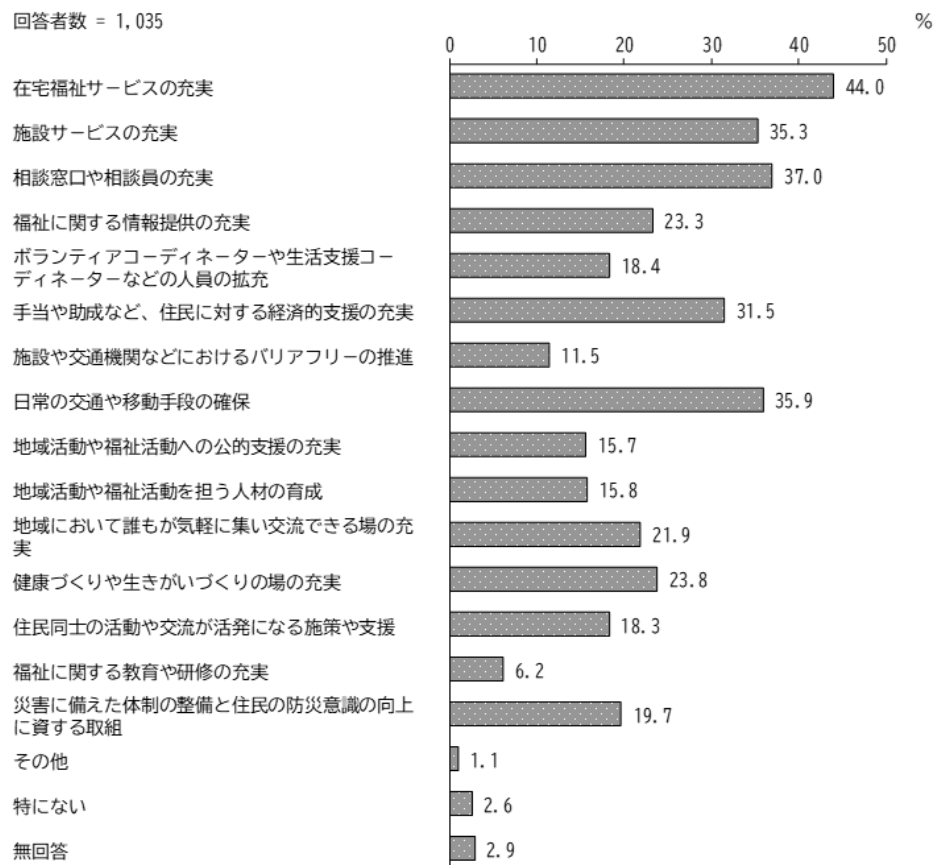
ステップ③草津市の未来

- ・ 多世代が関わり、知り合えるまち
- ・ 健康寿命 No.1 を目指す笑顔の見えるまち
- ・ 子どもが安心して遊べる、外出しやすい環境
- ・ 災害の不安を軽減し、助け合える地域づくり
- ・ 歴史や伝統を受け継ぎながら若者が元気に活躍するまち

テーマ③：福祉に関する施策について

設問：みんなで地域社会を支え合いながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるまちを実現するためには。

回答者数 = 1,035



ステップ①アンケート結果から見たこと

- ・ 地域の担い手不足と町内会の脱退傾向
- ・ 交流の場が少なく、あいさつ程度の関係にとどまる
- ・ 情報発信は受け手に合わせた工夫が必要
- ・ 若者は人よりも AI や SNS に相談する傾向
- ・ 信頼関係を築くための共通事項が必要

ステップ②地域でできること・始められそうなこと

- ・ ボランティア募集の簡素化と送迎支援の確保
- ・ 若者向けイベントや大学との連携授業の開発
- ・ SNS や保育・学校を通じた情報交換の場づくり
- ・ 地域祭りや運動会などの交流機会の充実
- ・ 他自治体の好事例から学ぶ

ステップ③草津市の未来

- ・ AI や自動運転などの技術を活用したインフラ整備
- ・ 小さなグループ同士のつながりを促進
- ・ 企業退職者の活躍の場づくり（畑管理・販売など）
- ・ 誰もが笑顔で挨拶し合える地域
- ・ 地域資源の見える化とコーディネーターの育成



アンケート結果から見たこと (感想)

為不違ひ人の善加

相談する体制や手順

一八青報

秘國

[illegible]

と心算でできること・始めのうちは何？

[illegible][illegible]

8 総括

今回の市民ワークショップでは、「不安や悩み、相談先」「地域とのかかわり」「福祉に関する施策」の3つのテーマをもとに、地域福祉の現状と未来について多様な視点から意見が交わされました。

不安や悩み、相談先に関しては、情報発信の届きにくさや相談先の分かりづらさ、孤立感の強さなどが課題として挙げられました。特に、制度の複雑さや顔見知りの少なさが安心感の欠如につながっているとの声が多く、子どもの遊び場や移動手段の不足も生活の不安要素として共有されました。市民による取り組みとしては、繰り返しの情報発信や訪問支援、専門職との連携などが提案され、誰もが住み続けられるまちづくりに向けて、地域と専門職が協働する姿勢が求められました。

地域とのかかわりについては、イベントや交流機会の不足、交通の不便さ、情報の届き方の課題が浮き彫りとなりました。特に高齢者や若者の地域参加の促進が必要とされ、災害時の不安や新住民の孤立など、地域のつながりの希薄さが課題として共有されました。市民の工夫としては、あいさつや声かけ、マンション内交流、若者の意見を聞く場づくりなどが挙げられ、地域サロンやカフェなど気軽に立ち寄れる居場所の整備も求められました。未来像としては、多世代が関わり、笑顔が見える健康なまち、安心して外出できる環境の整備が期待されました。

福祉に関する施策では、地域の担い手不足や町内会の脱退傾向、交流の場の不足が課題として挙げられました。若者の相談傾向や情報発信の工夫、信頼関係の構築に向けた共通事項の必要性も指摘されました。市民による取り組みでは、ボランティアの募集簡素化や送迎支援、大学との連携授業の開発などが提案され、他自治体の好事例から学ぶ姿勢も見られました。未来に向けては、AIや自動運転技術の活用、小さなグループ同士のつながり、企業退職者の活躍の場づくりなど、地域資源の見える化とコーディネーターの育成が重要視されました。

3つのテーマを通じて共通して見えたのは、「人と人とのつながり」が地域福祉の基盤であるという認識です。情報の届き方や相談体制、交流の場づくりなど、日常の課題解決には個人の意識とともに、地域全体で支え合う仕組みの構築が不可欠であることが再確認されました。